



松柏中学校アーカイブ通信 第27号 2024年11月25日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克  
(タイトルの背景は旧校舎)

## 校訓特集 (その2) 「松中生のイメージは？」

校訓特集2回目は、校訓に示された生徒像や松中生気質について言及していきます。

昨年の文化祭で、生徒会主催の「まるごと松中集会」というプログラムを実施しました。二人の卒業生に登壇してもらい、当時の松中生のイメージについて語ってもらいました。(写真右) 1976年度卒の兵頭(旧姓宮川) 貴美子さんは、学生時代と2回の松柏中勤務で、松中生気質について説得力ある意見を期待しました。兵頭さんは「私たちが学生の頃、旧市内の3中学校で、愛宕と八代がプロ野球で言う巨人・阪神のような勢いのある2校でよく比較されていたのに対して、松柏は大人しいというイメージで他校からはとらえられていたようだ。自分たち自身で『松中生は～』というのは意識して言ったことはなかった。」と発言されました。



この発言に続き、会場からは「(他校から松中生は) 大人しいと言われた。」「盛り上がることもできる。」「運動会やてやてやウェーブ等、やるときにはやる。」「全校でまとまりがある。」といった意見が出されました。(補足しておく、松柏中の特徴として、「今も変わらない地域との結びつきがある。」(1997年の) 初めての松中の牛鬼巡行では50万円の誠意が寄せられた。」等の意見も出されました。

総括すると、「松中生は普段は大人しいが、やるときにはやる」ということになります。もっと昔の資料はないだろうかと思い、調べてみました。松柏中学校の校訓と、目指す生徒像は次のとおりです。

- 至誠 … 全てに真心をつくす生徒
- 明朗 … 明るく活力のある生徒
- 友愛 … 思いやりのある温かい生徒
- 迫力 … たくましい実践力のある生徒



一つ目は1980年2月11日付けの紙名不明の記事からです。(写真右上) 1970年代をとおして、松柏中学校は学校安全教育に力を入れており、1979年の10月に文部大臣表彰を受けています。表彰に関連しての学校紹介という形で、当時の生徒会長：清水康雅さんの文章が掲載されています。「校訓は、至誠、明朗、友愛、迫力です。具体的には、まことを尽くし、明るく素直に、友達同士、仲良く助け合って、楽しい学校をつくっていきましょうということです。私たちは日夜この校訓を胸に努力していますが、先生方に言わせると「至誠と友愛はよく出来ているものの、明朗性にやや欠けているし、迫力の面は劣っているようだ」とのことです。」(原文ママ)



次に紹介するのは1963年に発行された「松中新聞」です。(写真左) 中岡忠第6代校長の「躍進する松柏中学校」と題した巻頭言に圧倒されます。

「本校の生徒は、素直で善良だが迫力に欠けると言われて来た。(中略) しかし、最近の松中生は、何事にも意欲的でしかも自主的になってきた。目の輝きまで以前とは違って来たように思う。」とありました。

この年、市内総体や新人大会では野球部が優勝し、「松柏中こども銀行」での生徒会活動で、大蔵・文部両大臣表彰に加えて、日銀総裁からも表彰され、三冠は実質日本一という榮譽に浴しています。そして注目したいのは、保護者の学校教育に対する熱い支援です。水はけの悪かったグラウンドの整地奉仕作業や、婦人部によるステレオセットの寄付、技術科教室新設に向けた陳情と実現など、多くの支援に、生徒たちは「地域に支えられている」と感じ、向上心につながっていると文章は結んでいます。